

平成２１年度第３回社会教育委員会議（要録）						
開催日	平成２２年２月２５日（木）			開会時間	１３時３０分	
会 場	中央公民館 ３階 視聴覚室			閉会時間	１６時００分	
委員の 出欠状況	石川 孝雄	欠	川窪 昌芳	欠	◎大谷 鐵子	出
	横 溝 健	欠	中尾 真弓	欠	勝又 眞紀	欠
	秋葉真佐子	出	内山 昌明	出	藤田志津子	出
	○鳥飼八五良	欠	伊藤 芳夫	欠		
	村山喜三江	欠	小林 貴博	出		
	北原 節子	出	井上 真弓	欠	◎議長 ○副議長	
傍聴者	０名					
事務局	【教 育 委 員 会】田中部長 【生 涯 学 習 課】星野主幹兼課長補佐、中田統括主査、谷保主事					
議 題	・ 研修会（和光市公民館運営審議会合同研修会） テーマ「これからの生涯学習の方向について」 副 題 住民に求められる公民館として 講 師：十文字学園女子大学社会情報学部 教授 亀田 温子 氏 ・ 議事 １ 生涯学習事業の報告について ２ 和光市社会福祉協議会役員の選出について ３ 【協議】事業仕分け結果について ・ その他					

■ 開会あいさつ

⇒和光市自治会連合会会長、山田氏よりあいさつ

1 研修会

テーマ「これからの生涯学習の方向について」

副 題 住民に求められる公民館として

講 師：十文字学園女子大学社会情報学部 教授 亀田 温子 氏

平成21年10月13日に、「和光市と十文字学園女子大学・同短期大学部の相互協力協定」及び「和光市教育委員会と十文字学園女子大学・同短期大学部の相互協力に関する覚書」を締結したことから、十文字学園女子大学より、亀田教授を招いて、研修会を実施した。

※和光市公民館運営審議会と合同研修会として実施。

2【議事１】生涯学習事業の報告について

⇒資料に基づき、スライドを参照しながら、事務局より説明。

（参照資料）・平成２１年度 生涯学習事業一覧

・平成２１年度 生涯学習課 事業報告

（大谷議長）社会教育委員として、成人式に出席させていただいた。成人たちは立派でとても和やかな成人式であったことを報告する。

3【議事２】和光市社会福祉協議会役員の選出について

（事務局）和光市社会福祉協議会役員について、任期が平成２２年３月３１日までとなっている。社会教育委員から２名の選出枠があるので、現行委員の村山喜三江委員と勝又眞紀委員に引き続きお願いしてもよろしいか。

（委員一同）当人が了承すれば、異議なし。

【決定事項】

◎ 和光市社会福祉協議会理事 ⇒ 村山 喜三江 委員

◎ 和光市社会福祉協議会評議員 ⇒ 勝又 眞紀 委員

4【議事３】【協議】事業仕分け結果について

⇒資料に基づき、事務局より説明。

（参照資料）・平成 21/11/18 事業仕分け指摘内容【公民館共通運営・中央公民館管理運営・講座開催】

（事務局）公民館の今後の運営について、魅力ある公民館とはどういうものなのか、市民ニーズを吸い上げるにはどのような方法があって、それを活用するにはどのような方法があるのか、また公民館を利用しない市民とは、どのようなことが原因なのか、社会教育委員のみなさんの忌憚のないご意見を伺いたい。

（小林委員）ＮＰＯとして、公民館を利用しているが、コミセンと公民館の違いがよくわからない。利用している市民がわからないのであれば、利用していない市民は尚更わからないのはもっともである。貸館ということで、コミセンと同じようなことを実施しているのであれば、無駄な投資をしているということ、どちらかが不要であるという仕分け人の意見も理解できる。公民館は、ただの貸館運営ではダメである。公民館から社会教育的な何かを発信していけるような事業を実施すべきである。公民館の存在意義が薄くなっている、今後は、公民館の独自性をアピールすべきである。

(藤田委員) 以前は、公民館を利用することで、和光市というまちをよく知るきっかけとなったが、最近の公民館事業は、ただ実施すればいいんだろう的な講座が多いような気がする。このような講座では、参加者として魅力を感じない。私自身は、講座後、自主グループを作って14～15年公民館活動している。現在の公民館事業は、そのような仕組みづくりが不十分なのではないか。市民と一緒に活動内容を考えてくれる職員がいたら、公民館活動ももっと活発になるのではないか。公民館まつりも市民に丸投げのような感じを受ける。公民館事業は、継続性のある魅力な講座実施が必要である。

(小林委員) 公民館で実施する講座は、学んで知るだけでなく、実際にまちで魅力的な素材を紹介し、まちへ還元していくことが必要なのではないか。公民館では、そこまで視野に入れ、講座の企画をしていくことが重要である。

(内山委員) 講座の企画立案の際に、行政主導ではなく、市民ワークショップを実施したらいいのではないか。地域に根づいたコミュニティがとれるような講座が魅力的であると感じる。勉強ではなく、「遊び」のような講座を増やしたらどうか。昔遊びなどを公民館で展開していけばいいのではないか。

(秋葉委員) 公民館がコミセンと異なるところは、施設の管理体制の関係で、時間制限などに厳しいのではないか。

(小林委員) 今現在の公民館について、使い勝手の悪いところを利用者が出して、できるところを公民館で改善していけばよいのではないか。

(秋葉委員) コミセンと公民館の違いの話が出たが、これからは、コミセンに近い公民館の運営の仕方をしていかないと若い人は利用しないのではないか。

(小林委員) いま、公民館に求められるものは、何かを教えてくれる場所だけではなく、市民の“居場所”としての機能が必要なのかもしれない。公共施設については、高齢者はこの施設、子ども連れはあの施設といったように、行政に利用者が区切られている気がする。施設によって、きっちり利用者像を決めなくてもいいのではないか。また、習志野市の秋津コミュニティは、住民による24時間365日の運営がされている。住民自身による主体的で柔軟な運営についても、検討してみてもどうか。施設利用を考えると、子連れの場合、子どもが兄弟で複数いても母親は一人である。このことから、年齢が異なる子どもでも、同じ施設が使えないと利用者としては、不便である。施設利用においては、利用者の多様性という視点を持ってもいいのではないか。

(藤田委員) 子育てをしながら集れる場所がいま市内で増えている。子育て支援センターや保育クラブなどの機能が発展しているが、利用者が仕分けがされている施設を利用することについて、子どもの成長を考えるとどうなのかなと疑問に思うところもある。

(大谷議長) 異世代が交流することが良いという人もいれば、あまり好まない人もいる。住民一人ひとりの意見が違う中で、難しいかもしれないが、みんなの居場所づくりが求められてい

るのではないか。

(北原委員) 公民館事業については、素人なので、事前に資料提供いただければ、少し意見が言えたのではないと思う。また、本日の委員出席が15名中6名ということで、会議の開催時間についても、土日や夜間開催を含めて、今後検討されてはいかがか。

(小林委員) 平日仕事をしている身としても、もし平日に開催するのなら、午後よりは、午前中のほうが会議に参加しやすい。

5 その他

⇒ (事務局)

会議の開催時間等については、今後検討する。資料についても、できるだけ事前配布するようにしていきたい。

■ 閉会